

2008年11月28日

mail ニュース

15・通巻203号

# 自治労連 都庁職

自治労連都庁職員  
労働組合

発行人 米山隆史

TEL 03-5381-0250

## 東京自治労連保育部会が、都庁職本庁 支部職場に「公的保育拡充」を求める チラシの机上配付行動を行う

東京自治労連保育部会は11月19日(水)、夕方6時から都庁職本庁支部の協力を得て、保育のチラシの机上配付を行いました。

今、国は保育の責任をなくして市場に委ねようとしています。そのためにさまざまな規制緩和を進めようとしており、その一つとして、現在は利用者が自治体に申し込み、自治体の審査を経て入園が決定するという仕組みを、事業者(保育園)と利用者(保護者)が入園契約を交わすことが出来るように「規制緩和」しようとしています。

今回の行動では、8名の保育者が4グループに分かれ、本庁支部の役員さんに付き添っていただいて、チラシを配付しました。本庁支部からは、篠塚書記長を始め、山田副支部長、富田教宣部長、川村女性部長、荒川企画組織部長が参加しました。

この机上配付行動も、今年で4年目を迎えました。保育部会の皆さんからは、「この行動が継続して行なえるのも自治労連都庁職をはじめ、都庁職本庁支部の皆さんのご理解とご協力のおかげです。心から感謝いたしております。」とお礼の言葉が寄せられています。

都庁職本庁支部の組合員の皆さんは、超過勤務による仕事にも関わらず“保育のチラシ”を快く受け取ってくれました。「お工作中、すみません。保育のチラシです。読んでください。」と声をかけると「あっ、はい。」と殆どの方が受け取ってくれるのです。

ある女性は、「私の子どもも今年卒園し保育園には、お世話になりました。」と声をかけてくれました。「送り迎えなど、大変でしたね。」と応える一幕もあったそうです。また、「ごくろうさま。」と声をかけて励ましてくれる方もいました。仕事の邪魔をしないように緊張してチラシを配付していたのですが、「ごくろうさま。」と声をかけてくれると、「ホッとした気持ちになる」と参加した役員は感想を述べています。

この行動に先立ち、自治労連都庁各支部及び中立・未批准支部に対して、執行委員会開催日時を選んで、保育部会の梅野事務局次長が「保育制度の拡充を求める請願署名」の要請のために全支部を回っています。

請願署名の取り組みについて、引き続き各支部のご協力ほどお願いいたします。